

学校概要

| | | | | |
|----------------------|-----------|---------------|----------|--------------|
| 創立 35 周年 | 学校長 小倉 早苗 | 副校長 菊原 政臣 | 学期 3 学期制 | 児童・生徒数 401 人 |
| 学級数 一般級: 13 個別支援級: 2 | | 主な関係校: 鴨志田中学校 | | |

学校教育目標

ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する 鴨志田緑の子
 ～ ふれあい かがやき 豊かな心 ～

- 基礎的・基本的な学力を身につけ、共に学び合う子を育てます。(知)
- 自分や人のよさを認め合い、心豊かな子を育てます。(徳)
- 健やかな心と体をつくり、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体)
- 「ふるさと」を愛し、人・自然・まちと共に生きる子を育てます。(公)
- 様々な人とのコミュニケーションを通し、国際社会に視野を広げる子を育てます。(開)

学校の特徴

□KFT(かもの子ふれあいタイム:縦割りグループの活動)での異学年とのかかわりや、クラブ活動のまちの先生方・ひいらぎのつどいのひいらぎの先生方・読み聞かせの先生方・図書館ボランティアの方々・かもの子農園の畑の先生や農園ボランティアの方々をはじめとする地域の方々や保護者とのかかわりなど、人とのふれあいを大切に教育活動を進めることにより、人の思いや立場をよく考えて行動できる子どもの育成に力を入れている。
 ■本校の特長である『人とのふれあい』を大切に教育活動の内容の一層の深まりについて工夫し丁寧に進める。
 ■学習では、課題について自分の考えをもち、伝え合う力を高める必要がある。

学校経営中期取組目標

- 豊かなふれあいを大切にしながら、子ども一人ひとりが心から安心して楽しく過ごせる学校にします。
- ・一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合う力を高めることを通して、『学び合う楽しさ』を実感できる授業づくりを推進します。
- ・縦割り活動を通して、相手の思いや立場をよく考えて行動し、温かく協力し合える姿勢を育てます。
- ・地域の方々とのふれあいを大切に教育活動を進め、地域の方々の思いを受けとめ感謝する心、ふるさとのまちを愛する心を育てます。
- ・一人ひとりが自分のよさや友だちのよさを認め合い、共に力を合わせて学校生活が送れるよう、丁寧な児童指導、児童支援を推進します。
- ・健康な心身を育むための体力づくりや基本的な生活習慣づくりを推進します。

小中一貫教育の取組

| | | |
|-------------|---|-------------------------|
| 鴨志田中学校 | ブロック | 鴨志田中学校・鴨志田第一小学校・鴨志田緑小学校 |
| 9年間で育てる子ども像 | ○伝え合い、学び合う力を育み、9年間の学習を主体的に取り組むことができる子ども ○地域に貢献できる子ども ○互いを認め合う豊かな心をもった子ども ○運動に楽しく取り組み、健やかな体を育もうとする子ども | |
| 自校の具体的取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中ブロックの授業研究会を通して、9年間を見通した学習のあり方について考える。 ・地域防災訓練の活動を通して、地域の一員としての意識をもって活動に取り組む指導を進める。 ・中学校合唱コンクールへ6年生が、ふれあいコンサートへ3年生がそれぞれ参加し、お互いの発表のよさを聴き合う。 ・学校保健委員会テーマ『歯の健康』への意識を高める。マラソン練習を行い『ふるさとマラソン』に積極的に参加する。 | |

| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|-----------|---|---|
| 確かな学力 | 自分の考えをもち、互いに伝え合うことのできる授業展開を工夫し、子ども自らが見通しをもって主体的に学ぶ姿勢や、思考力・表現力の育成を目指す。 | ①重点研究の取り組みを通して、自分の考えを伝えるだけでなく、友だちの考えをしっかりと聞くことにより、考えを深め合ったり高め合ったりなど『伝え合う』ことを重視した授業づくりを目指す。②子どもが『伝えたい』『伝えなければ』『聞きたい』と本気で思える課題設定や「しかけ」「ゆさぶり」を工夫し、学習への意欲向上を図る。 |
| 豊かな心 | 他の人の思いや立場・状況を考え、お互いを認め合い、温かくかかわり合える心を育てる。 | ①KFT(かもの子ふれあいタイム・全校縦割りグループの活動)を年間を通して継続し、異学年同士のかかわりをもつ。また、それぞれの活動の学年毎のねらいを明確にし、一人ひとりが活動の見通しをもって主体的に取り組む、達成感や満足感をもてるようにする。②KFT以外の学校生活の中でも、ペア学年同士のかかわりを積極的に進める。 |
| 健やかな体 | 長縄やマラソン等へ子どもたちが主体的に取り組む、体力向上を目指すようにする。歯の健康に関する取り組みを通して健康への意識を高める。 | ①全校児童が主体的に体力向上に向けた取組に参加できる仕組み(長縄やマラソンなど)を通常で行うことで、体力向上だけでなく、子どもたち同士の協力や結びつきを実感できるようにする。②学校保健委員会が進める取り組みについて、健康な心と体づくり(歯の健康)に向けてテーマを設定し、全校児童で生活習慣の向上を目指す。 |
| 児童指導 | 全職員がスタンダード等を共有し、子どもたちに「なぜ」を考えさせながら丁寧に指導する。早めに対応する体制を大切に、いじめ防止や早期発見に努める。 | ①『学校のきまり』と『職員スタンダード』をもとに、細かいスパンで課題や成果・変容を確認しながら、全職員で共有しながら指導にあたる。②早めに丁寧に対応できる児童指導・児童支援を目指して、ブロック学年研究会・児童指導児童支援委員会の充実を図る。 |
| 特別支援教育 | 全ての教育活動の中で、特別支援教育の視点をよりしっかりとって取組むことを目指す。合理的配慮に対する職員の理解を進めていく。 | ①個別支援学級交流委員会を基盤とし、一般学級と個別支援学級の連携の強化を図り、充実した交流学習を進める。②特別支援委員会を基盤とし、支援や配慮を要する児童へのニーズに応じた継続的な指導を、保護者との連携のもと、進める。③特別支援教育の充実や合理的配慮等についての教職員の研修・研究の充実を図る。 |
| 地域連携 | 地域の方々とのかかわりを、学校のかげがえのない特色として大切に進める。地域の方々や保護者に積極的に活動の発信をし、理解を深め関心を高める。 | ①それぞれの活動の意義やめあてを明確にし、児童がより主体的に活動できるよう学年の実態にそった指導の手だてを工夫していく。②地域の方々とのかかわりのある活動について積極的に発信し、子どもたちが地域の方々と共に、地域の自然・文化の中で教育活動を進めていることの理解を得る。また、子どもたちの地域への愛着を確かなものとする。 |
| 安全防災 | 子どもたちの安全な生活のために、安全防災マニュアルを丁寧に確認し、より確かなものへと改善する。防災教育の充実に向けて取り組む。 | ①避難訓練、安全教育の取組について、PDCAサイクルにより、改善を確実に進め、精度を高めていく。子ども自身が「自分の命は自分で守る」との意識を高められるように系統的な防災教育に取り組む。②地域の総合防災訓練に全校児童が参加し、地域の一員としての意識をもちながら、防災の活動に取り組む。 |
| 人材育成・組織運営 | テーマを明確にしたメンターチームの研修を確実に実践する。会議の進め方・情報共有について、方法の改善を図り、効率化と精度の充実を着実に進める。 | ①授業力向上のための具体的なテーマを設定したメンターチームの研修を計画的に実施を進める。②ICTの活用、会議資料や情報共有の形式や内容の工夫をより一層行い、効率的で確実な会議運営を進める。またその実現状況について、短いスパンで振り返り、着実に定着できるようにする。 |
| いじめへの対応 | 児童一人ひとりが、豊かに心から安心して楽しく実感できる学校生活を送るために、必要な環境をつくる。全児童の「人権」を保障するための支援を行う。 | ①横浜プログラムを授業や学校行事の場面で活用する。②児童一人ひとりの様子について、YP等を活用し、学級・学年等の子ども様子を客観的に把握し、一人ひとりの心に寄り添った指導・支援を行う。③校長をリーダーとし、学級担任・学年主任・児童支援専任・養護教諭・教務主任からなるチームで支援体制を整える。 |